



平成28年9月9日
内閣府（防災担当）

平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定及び 表彰式について

別添のとおり、平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者が決定しましたのでお知らせします。

また、式典を下記のとおり執り行います。

記

- 日 時 平成28年9月12日（月）
午前11時30分～
- 場 所 総理大臣官邸大ホール
- 出席者 内閣総理大臣 ほか

* 式典内容はカメラ撮り可

【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 坂本、梶原、佐藤、篠田

電話：03-3501-5408（直） FAX：03-3503-5690

平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞者名簿

○ 個人

〔防災体制の整備〕

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授 田 中 淳 | (東京都) |
| 東海学園大学教育学部特任教授・医師 野 口 宏 | (愛知県) |
| 鳥取大学名誉教授 西 田 良 平 | (鳥取県) |
| 東北大学災害科学国際研究所長 今 村 文 彦 | (宮城県) |

○ 団体

〔災害現場での顕著な防災活動〕

| | |
|---|-------|
| (平成26年7月豪雨災害における自主防災組織の災害出動) 白鷹町自主防災組織連絡協議会 | (山形県) |
| (平成26年台風8号における土砂災害及び長野県神城断層地震における災害活動) 長野県砂防ボランティア協会 | (長野県) |
| (平成26年台風第12号及び11号における消防団の災害出動) 日高村消防団 | (高知県) |
| いの町消防団 | (高知県) |
| (平成26年8月豪雨災害における消防団の災害出動) 福知山市消防団 | (京都府) |
| (平成26年8月広島市の土砂災害における災害対策活動) 緊急災害対策派遣隊 | (東京都) |
| (平成26年8月広島市の土砂災害における二次災害防止活動) 砂防ボランティア広島県協会 | (広島県) |
| (平成26年12月島田市工場火災における消防団の消火活動) 島田市消防団 | (静岡県) |
| (平成27年9月関東・東北豪雨災害における災害警備活動) 茨城県警察本部 | (茨城県) |
| (平成27年9月関東・東北豪雨災害における消防団の災害出動) 大崎市消防団 | (宮城県) |
| 栗原市消防団 | (宮城県) |
| 古河市消防団 | (茨城県) |
| 結城市消防団 | (茨城県) |
| 下妻市消防団 | (茨城県) |

| | |
|---------------------------------|--------|
| 常総市消防団 | (茨城県) |
| 筑西市消防団 | (茨城県) |
| 坂東市消防団 | (茨城県) |
| 神栖市消防団 | (茨城県) |
| つくばみらい市消防団 | (茨城県) |
| 八千代町消防団 | (茨城県) |
| 境町消防団 | (茨城県) |
| 下野市消防団 | (栃木県) |
| 鹿沼市消防団 | (栃木県) |
| 小山市消防団 | (栃木県) |
| 壬生町消防団 | (栃木県) |
| 栃木市消防団 | (栃木県) |
| 野木町消防団 | (栃木県) |
| (平成27年9月関東・東北豪雨災害における救助活動) | |
| 第三管区台風18号に係る大雨災害対策本部 | (神奈川県) |
| (平成27年9月関東・東北豪雨災害における災害派遣) | |
| 第1師団災害派遣部隊及び同協同・支援部隊 | (東京都) |
| (平成28年2月豪州観測船座礁における輸送支援活動) | |
| 砕氷艦「しらせ」 | (神奈川県) |
| (災害発生時の急患輸送、空中消火活動等の災害派遣) | |
| 海上自衛隊 第72航空隊 | (長崎県) |
| 〔防災体制の整備〕 | |
| 蟹沢自主防災会 | (秋田県) |
| NPO法人パートナーシップながれやま、流山子育てプロジェクト | (千葉県) |
| 〔防災思想の普及〕 | |
| 立山砂防女性サロンの会 | (富山県) |
| 五色園区自主防災隊 | (愛知県) |
| 企業防災ネットワーク「地震に強いものづくり地域の会」あいぼう会 | (愛知県) |
| 松山市自主防災組織ネットワーク会議 | (愛媛県) |
| 相島少年消防クラブ | (福岡県) |

以上 4個人、38団体

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | た な か あ つ し 田 中 淳 |
| 住 所 | 東京都文京区 |
| 職 業 | 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、災害情報分野の第一人者であり、特に災害情報提供や避難行動の分野において、優れた成果を残しており、幅広い知見を踏まえ、防災行政へ有用な提言を行うなど、防災体制の整備に対する貢献度は絶大である。</p> <p>研究活動においては、地震情報の利活用の高度化や災害情報提供のユニバーサル化、首都直下地震による被害の解明のほか、災害時の避難行動といったテーマで学術的に極めて高い成果を挙げており、これは防災行政においても多大な影響をもたらしている。加えて、日本災害情報学会会長などを務めた実績があり、災害情報分野における功績は極めて大きい。</p> <p>防災行政においては、中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」委員、「火山情報等に対応した火山防災対策検討会」座長をはじめ、中央防災会議「地方都市等における地震防災のあり方に関する専門調査会」座長代理、中央防災会議防災対策実行会議「水害時の避難・応急対策検討ワーキンググループ」の主査等を務め、数多くの有用な提言を行うなど、災害情報の専門家として幅広く活躍しており、防災行政における貢献度は絶大である。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | の ぐ ち ひ ろ し 野 口 宏 |
| 住 所 | 愛知県名古屋市東区 |
| 職 業 | 東海学園大学教育学部特任教授・医師 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、1990年に愛知医科大学救命救急センターの専任教授に就任以来、愛知県災害医療対策協議会、愛知DMAT運営協議会の会長として、全国の規範となる災害医療の先進地域の構築に尽力し、2005年日本国際博覧会の際には、会場内フィールドにAED100台を設置し、救急救命士、救急専門医、看護師等による先進的救急医療体制を構築して高い救命率を得るなど、長年にわたり、救急救命士の育成、教育に尽力した。</p> <p>特に救急救命士の処置範囲拡大に関わる全国規模の研究を企画し、その実証研究の代表研究者として、救急救命士による心停止前の処理が可能となる結果を得ている。</p> <p>さらに、東日本大震災発災時には愛知県救急医療センター総括センター長として愛知県医師会、愛知県医務国保課との連携のもと、愛知県としての医療活動の取りまとめに尽力されるとともに、「愛知DMAT研修」の実施にも尽力し、現在までこの研究により51チームが養成され、東日本大震災や熊本地震へのDMAT派遣に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-------|--|
| 関係省庁 | 内閣府 |
| 氏名 | にしだ りょうへい 西田 良平 |
| 住所 | 鳥取県鳥取市 |
| 職業 | 鳥取大学名誉教授 |
| 功績の概要 | <p>同氏は、鳥取県における地震に関する第一人者であり、平成12年10月の鳥取県西部地震では当日に鳥取県災害対策本部に入り、その知見を生かした助言を行い、応急対策に貢献した。</p> <p>また、同地震を踏まえた鳥取県の地震津波被害想定を策定し、消防、防災、防災教育、原子力防災に関する多くの県の附属機関で指導助言を行い、平成17年度設立の鳥取県防災顧問に現在までの長きに亘り就任するとともに、鳥取県自主防災活動アドバイザーとしても活躍するなど、鳥取県の消防防災体制の充実強化に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 関係省庁 | 文 部 科 学 省 |
| 氏 名 | いまむら ふみひこ 今 村 文 彦 |
| 住 所 | 宮城県仙台市太白区 |
| 職 業 | 東北大学災害科学国際研究所長 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、低頻度大災害である津波災害に対して、発生・伝播メカニズムから予測さらには被害軽減までを総合化した学問分野である津波工学を立ち上げた。</p> <p>また、東日本大震災の発生から約1年後の平成24年4月に東北大学災害科学国際研究所の発足に携わるとともに、第2期所長として広域大災害に対する知見と教訓をまとめ、被災地域での復興計画や法律立案に貢献した。</p> <p>さらに、その成果を国内外に発信し、数値解析の技術移転、津波警報体制、ハザードマップ、総合防災対策などの支援を行い、世界各地での被害軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|---|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>内 閣 府</p> |
| <p>名 称</p> | <p>白鷹町自主防災組織連絡協議会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>山形県西置賜郡白鷹町</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>かねだ かつお 会 長 金 田 捷 夫</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同協議会は、平成25年7月の集中豪雨に際し、降り続く豪雨という極めて困難な状況下において水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、避難所の開設、被害者宅の支援活動等の復旧活動に尽力した。 また、平成26年7月の集中豪雨においては、住民の避難誘導と避難所を開設するとともに、土砂崩れのあった地域においても、夜間にも関わらず住民を無事に避難させるなど、自らの危険を顧みない献身的な対応に奔走し、災害時の防災活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|---|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>国 土 交 通 省</p> |
| <p>名 称</p> | <p>長野県砂防ボランティア協会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>長野県長野市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>お さ か ひ さ お 会 長 尾 坂 壽 夫</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同協会は、平成26年台風第8号に伴う豪雨による南木曾町梨子沢流域の土砂災害に際し、9名が出動し、流出土砂等により現地への到達が困難な状況下において、土石流が発生した周辺の流域の緊急点検を行った。</p> <p>また、平成26年11月に最大震度6弱を記録した長野県神城断層地震に際し、6日間にわたり、延べ44名が出動し、地震により道路が寸断され、現地への到達が極めて困難な状況下において、土砂災害危険箇所の緊急点検を行った。</p> <p>点検結果は長野県の二次的な危険箇所把握や応急対応及び市町村の警戒避難体制の構築に役立てられ、地域住民の生命・身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関係省庁 | 国土交通省 |
| 名称 | 日高村消防団 |
| 所在地 | 高知県高岡郡日高村 |
| 代表者 | <p style="text-align: center;">やの たかあき</p> 団 長 矢 野 孝 明 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成26年8月の台風第12号及び台風第11号の集中豪雨に際し、4日間にわたり、延べ274名が出動した。豪雨により主要幹線道路を含む広大な範囲が水没した危険な状況の下、土嚢積み等の水防活動のほか、内水氾濫による孤立者の救出救援活動や土砂崩れへの対応など多岐にわたる防災活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 国 土 交 通 省 |
| 名 称 | いの町消防団 |
| 所 在 地 | 高知県吾川郡いの町 |
| 代 表 者 | べっちやく たかお 団 長 別 役 隆 雄 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成26年8月の台風第12号及び台風第11号の集中豪雨に際し、4日間にわたり、延べ607名が出動した。降り続く豪雨という極めて危険な状況の下、昼夜にわたり土嚢積み等の水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、人命救助活動、広報活動、障害物除去活動などを行い、一人として人的被害を出さず、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関係省庁 | 国土交通省 |
| 名称 | 福知山市消防団 |
| 所在地 | 京都府福知山市 |
| 代表者 | かたおか こうき 団 長 片 岡 幸 基 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成26年8月16日から17日にかけて日本列島に停滞した前線がもたらした局地的な豪雨に際し、2日間にわたり、延べ1,592名が出動した。降り続く豪雨と内水氾濫による浸水という極めて危険な状況のもと、昼夜にわたり土嚢積み等の水防活動を行うとともに、内水氾濫により孤立した118名の住民を救助用ボートにより無事救出した。また、避難広報、避難誘導、警戒巡視を行い、人命および財産の被害拡大ならびに二次災害の防止に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>国 土 交 通 省</p> |
| <p>名 称</p> | <p>緊急災害対策派遣隊</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>東京都千代田区</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>え ず み の ぶ よ し 中国地方整備局 企画部防災課長 江 角 信 良</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同派遣隊は、平成26年8月に発生した広島土砂災害に際し、発災当日から活動を開始し、約1ヶ月にわたり、延べ2,476名が出動し、土砂や流木などが山積するとともに、土石流などの二次災害の恐れがある過酷な状況のなかで、土石流危険渓流の緊急点検及び危険度評価を短期間で行うとともに、捜索活動のための安全点検や降雨後の作業再開に関する技術的助言など、警察、消防、自衛隊の捜索活動の支援や市街地に堆積し、復旧や捜索の妨げとなっていた大量の土砂等を24時間体制で撤去を行うことにより、被災地の早期復旧に向け多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|---|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>国 土 交 通 省</p> |
| <p>名 称</p> | <p>砂防ボランティア広島県協会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>広島県広島市中区</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>たかはし ひであき 会 長 高 橋 秀 彰</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同協会は、平成26年8月広島市を襲った集中豪雨に伴い同時多発的に発生した大規模土砂災害に際し、5日間にわたり、延べ12名が出動し、流出土砂等により現地への到達が困難な状況下において、がけ崩れ崩壊箇所の現地調査を行い、危険箇所を把握した。調査結果は広島県へ報告され、その後の応急対策に役立てられるなど、地域住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>消 防 庁</p> |
| <p>名 称</p> | <p>島田市消防団</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>静岡県島田市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>はまのけんじ 団 長 濱 野 健 司</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同消防団は、平成26年12月の島田市内の製紙工場で発生した火災に際し、12月31日から1月5日の6日間、延べ1,870名が交代制で24時間出動した。木材チップの燃焼により煙が充満した過酷な状況下で、昼夜を問わず懸命な消火活動を行い、周辺への影響を最小限に食い止め、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 警 察 庁 |
| 名 称 | 茨城県警察本部 |
| 所 在 地 | 茨城県水戸市 |
| 代 表 者 | よとりやま しげる 本部長 世取山 茂 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同警察本部は、平成27年9月の関東・東北豪雨に際し、被害状況に応じ警備体制を「災害警備本部」へ段階的に格上げするなど、迅速かつ的確な体制を確立した。鬼怒川堤防の決壊により、濁流を伴う浸水が発生する中、二次災害の危険性など極めて困難な状況下で、他都県の支援を得て住民の避難誘導、救出救助活動を実施した。また、消防、自衛隊等の関係機関と効果的に連携し、適切な災害警備活動を行った。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 大崎市消防団 |
| 所 在 地 | 宮城県大崎市 |
| 代 表 者 | さとう たくみ 団 長 佐 藤 技 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、24時間で延べ909名の団員が出動し、豪雨により河川が増水、各地で堤防破堤や越水により、床上浸水などの被害を受ける危険な状況の中、河川等の巡視、避難誘導、交通整理、内水排水作業や各種水防工法を用いた水防活動を適確に行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 栗原市消防団 |
| 所 在 地 | 宮城県栗原市 |
| 代 表 者 | ち ば た か お 団 長 千 葉 孝 夫 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、3日間にわたり、延べ763名が出動した。豪雨により河川が増水、各地で堤防破堤や越水により、床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、昼夜にわたり巡視・警戒活動、土のう積みや排水作業など、的確な水防活動を行うとともに、行方不明者の捜索に尽力し、早期発見に至るなど被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 古河市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県古河市 |
| 代 表 者 | うちだ しんいち 団 長 内 田 信 一 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、3日間にわたり、延べ554名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、冠水道路等の交通整理を実施した。またポンプ車による水没箇所の排水など、被害軽減及び災害復旧活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 結城市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県結城市 |
| 代 表 者 | ひ ろ え か ず お 団 長 廣 江 一 夫 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、5日間にわたり、延べ769名が出動した。避難に係る広報を市内3000世帯に向けて行うとともに、通行止めの規制がかかった橋などで交通整理を行い、また、担当区域の危険箇所や状況についての災害対策本部への報告や、浸水被害を受け自宅に取り残された住民の救助活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 下妻市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県下妻市 |
| 代 表 者 | とみた こういち 団 長 富 田 光 一 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、6日間にわたり、延べ516名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜を問わず増水した河川の巡回及び警戒、河川増水による浸水域の排水作業、水防工法施工による被害防水を実施するとともに、住民の避難誘導や冠水道路等の交通整理を実施し、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 常総市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県常総市 |
| 代 表 者 | くさま じゅんじ 団 長 草 間 順 司 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、18日間にわたり、延べ1,424名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、避難指示などの広報活動を行うとともに、住民の救助や避難誘導、冠水道路の交通整理を行った。また、自衛隊・警察及び消防団の合同による人命捜索を行うなど、昼夜を問わず多岐に渡る活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 筑西市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県筑西市 |
| 代 表 者 | のざわ のぶあき 団 長 野 澤 信 明 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、5日間にわたり、延べ391名が出動した。豪雨により河川が増水、各地で溢水や堤防増水により、床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、河川の巡視や危険地域の警戒、住民の避難誘導、交通整理、人命救助、消防・警察の活動の後方支援など多岐にわたる活動を行い、救助復旧活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 坂東市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県坂東市 |
| 代 表 者 | ながつか ひさお 団 長 永 塚 久 男 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、10日間にわたり、延べ531名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、河川の巡回や住民の避難誘導、消防・警察の活動の後方支援など多岐にわたる活動を行い、救助復旧活動に多大な貢献をした。またポンプ車による水没箇所の排水など、被害軽減及び災害復旧活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 神栖市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県神栖市 |
| 代 表 者 | かねもと よしあき 団 長 金 本 吉 明 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、2日間にわたり、延べ154名が出動した。豪雨により河川が増水、各地で堤防破堤や越水により、床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、昼夜を問わず、住民の避難誘導や道路冠水による交通整理、積み土のうによる越水防止や排水活動などの水防活動を行い、被害の軽減に多大な貢献した。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | つくばみらい市消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県つくばみらい市 |
| 代 表 者 | すずき きよし 団 長 鈴 木 喜 代 志 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、3日間にわたり、延べ148名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、巡回及び住民への避難周知、ポンプ車による排水活動など、多岐にわたる水防活動を行い、家屋の被害を最小限に食い止め、人的被害も無く、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 八千代町消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県結城郡八千代町 |
| 代 表 者 | こすげ こうじ 団 長 小 菅 康 司 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、2日間にわたり、延べ320名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜を問わず水防活動を行うとともに、河川の巡回や住民の避難誘導、人命救助活動によって、孤立した2名を救出したほか、車両ごと流された1名を救出し、一人として人的被害を出さず、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 境町消防団 |
| 所 在 地 | 茨城県猿島郡境町 |
| 代 表 者 | かとう まさのり 団 長 加 藤 正 則 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、8日間にわたり、延べ322名が出動した。降り続く豪雨により床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、住民の避難誘導や冠水道路の交通整理などを実施した。また、行方不明者の連絡が入った後、3日間にわたり72名で捜索活動を続け、発見に至るなど、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 下野市消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県下野市 |
| 代 表 者 | おおつか ひろし 団 長 大 塚 洋 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、2日間にわたり、延べ676名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜にわたり水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、人命救助活動を行い、一人として人的被害を出さず、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 鹿沼市消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県鹿沼市 |
| 代 表 者 | いとう きんじ 団 長・伊 藤 金 治 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、2日間にわたり、延べ1,062名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜を問わず水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、人命救助活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 小山市消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県小山市 |
| 代 表 者 | いそはた たかよし 団 長 五十畑 哲 義 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、5日間にわたり、延べ1,270名が出動した。降り続く豪雨により床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、住民の避難誘導や水防活動を実施した。内水により自力避難困難となった112世帯269名を救命ボートなどで救出し、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 壬生町消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県下都賀郡壬生町 |
| 代 表 者 | せきもと かずお 団 長 関 本 和 夫 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、3日間にわたり、延べ383名が出動した。降り続く豪雨により川が増水し、一部で堤防が破損する危険な状況の中、昼夜にわたり水防活動を行った。水没により動けなくなった車の救出や、水没した車からの人命救助、床上浸水住宅からボートを使った人員救助を行うなど、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 栃木市消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県栃木市 |
| 代 表 者 | いしざき つねお 団 長 石 崎 常 男 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、5日間にわたり、延べ2,031名が出動した。降り続く豪雨により床上・床下浸水などの被害を受ける危険な状況の中、昼夜を問わず、水防活動を行った。住民の避難誘導や住宅浸水により孤立した住民の救出活動を実施したほか、豪雨の影響による建物火災が発生した際には、水防活動中であつた団員も消火活動にあたるなど、住民の生命又は身体保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | 野木町消防団 |
| 所 在 地 | 栃木県下都賀郡野木町 |
| 代 表 者 | お の よ し ゆ き 団 長 小 野 善 行 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同消防団は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、2日間にわたり、延べ174名が出動した。降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜を問わず水防活動を行った。住民の避難誘導や冠水道路の交通整理、ポンプ車による排水活動を行い、住民の生命又は身体の保護に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>海 上 保 安 庁</p> |
| <p>名 称</p> | <p>第三管区台風十八号に係る大雨災害対策本部</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>神奈川県横浜市中区</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>みやの なおあき 第三管区海上保安本部長 宮 野 直 昭</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同対策本部は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、第三管区海上保安本部に「第三管区台風十八号に係る大雨災害対策本部」を設置し、羽田航空基地及び他管区からの派遣を受けた回転翼航空機計5機に特殊救難隊及び機動救難士を同乗させ現地に派遣した。住宅街特有の障害物がある特殊な状況での活動及び夜間の救出活動を行った結果、2日間で99名を救出した。孤立した病院や、水位が上昇する急迫した危険がある中で、車両に取り残された被救助者等の救助活動に従事するなど、被害の軽減に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 関 係 省 庁 | 防 衛 省 |
| 名 称 | 第1師団災害派遣部隊及び同協同・支援部隊 |
| 所 在 地 | 東京都練馬区 |
| 代 表 者 | にしひろのり 第1師団長 西 浩 徳 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同部隊は、平成27年9月関東・東北豪雨に際し、10日間にわたり、延べ7,535名が出動した。堤防の決壊による常総市内の冠水を克服して、航空機およびボート等を活用し人命救助を実施した。災害派遣撤収要請までの間、24時間体制で活動し、2,015名の孤立者救助・避難支援、行方不明者1名発見、生活支援などの成果をあげた。その他、水防活動、給水支援、入浴支援及び防疫活動を継続して実施し、被災地住民の安全確保及び生活基盤の確保に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>防 衛 省</p> |
| <p>名 称</p> | <p>砕氷艦「しらせ」</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>神奈川県横須賀市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>おおが ひさのぶ 砕氷艦「しらせ」艦長 大 鋸 寿 宣</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同艦は、第57次南極地域観測事業支援に従事中、豪州政府の豪州観測隊員の帰国に係る支援要請に基づき、荒天のため、モーソン基地沖で漂流・座礁し、自力航行が困難となっていた同国観測船「オーロラ・オーストラリス」の観測隊員66名及びヘリコプター3機の救助活動及び輸送を行った。3月6日から3月12日までの間、計画を変更し、現場海域の猛烈な波浪状況かつ、座礁の二次被害の危険性がある極寒の環境の下、任務付与を受けてから救援開始まで2日間という極めて短い期間で、同隊員等を豪モーソン基地沖から豪ケーシー基地まで安全確実に輸送するなど、輸送支援活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 防 衛 省 |
| 名 称 | 海上自衛隊 第72航空隊 |
| 所 在 地 | 長崎県大村市 |
| 代 表 者 | 司令 <small>はやし たかし</small> 林 隆 司 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同隊は、平成20年3月26日に発足して以来、平成26年12月31日時点まで、航空救難の専任部隊として累計892回出動し、急患輸送により延べ893名を人命救助した。夏季の台風や冬季の降雪など厳しい気象、海象の下であっても昼夜の区別なく24時間、救急患者や遭難者の危難に際し、困難な状況下で限られた航法機器を駆使し身の危険を顧みず人命救助を続けている。大型地震の発生時には、速やかに自主派遣し、情報収集を行い災害時の防災活動に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|------------------|---|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>内 閣 府</p> |
| <p>名 称</p> | <p>蟹沢自主防災会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>秋田県鹿角市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>ふじわら じゅんいち 会 長 藤 原 純 一</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同自主防災会は、平成16年に鹿角市尾去沢蟹沢自治会を母体として結成された自主防災会で、毎年9月第2日曜日を「地域防災の日」と位置づけ、地域ぐるみで総合防災訓練を行っている。土のう作成訓練は平成19年と平成25年に発生した豪雨災害時に家屋の床下浸水を防いだほか、安否確認訓練は、平成23年東日本大震災時に高齢者世帯、一人世帯の全戸安全確認などにつながった。地域が年々高齢化していく中で、高齢者を対象とした防災に関する寸劇を披露するなど特色ある活動を行っている。こうした自主防災の先駆的な活動により、研修で視察に訪れる自主防災組織が増えているほか、他地域で講話を行うなど秋田県の防災体制の整備に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 関係省庁 | 消 防 庁 |
| 名 称 | NPO法人パートナーシップながれやま、流山子育てプロジェクト |
| 所 在 地 | 千葉県流山市 |
| 代 表 者 | <p>やまぐち ふみよ <small>N P O 法 人</small> <small>パ ー ト ナ ー シ ッ プ</small> <small>プ</small> <small>か が れ や ま</small> <small>フ</small> <small>ロ ジ ェ ク ト</small> 山 口 文 代 あ お き や え こ 流 山 子 育 て プ ロ ジ ェ ク ト 青 木 八 重 子</p> |
| 功 績 の 概 要 | <p>両団体は、平成25年から協働で「防災・減災につながるまちづくり」活動を男女共同参画の視点や乳幼児を抱えた母親の視点等から行っている。平成26年1月には、乳幼児を抱える家庭向けに、防災・減災ガイドブックを制作し発行した。さらに防災・減災知識の普及啓発に当たって、ガイドブックを利用した「防災キャラバン（出前講座）」を実施し、隣近所とのネットワーク化を進め、共助の体制強化に努めている。同講座では、女性がリーダーシップを持つことの重要性も訴えており、この活動が地域における女性防災リーダーの育成にもつながり、地域防災力の向上及び女性の参画拡大に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>国 土 交 通 省</p> |
| <p>名 称</p> | <p>立山砂防女性サロンの会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>富山県富山市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>お ば た の り こ 会 長 尾 畑 納 子</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同会は、平成13年に結成されて以来、様々な講師を招いて砂防に関する講演会（年1回）や富山県内の女性団体を対象とした立山カルデラ視察見学会（年1回）を開催し、女性の立場から地域に対する土砂災害防止の向上、砂防事業の重要性の啓発に大きく貢献している。会員の土砂災害防止に関する意識は高く、会員対象の立山カルデラ現地視察見学会（年1回）、富山県近隣の砂防視察（年1回）、海外視察研修（年1回）を行っており、各地で開催されるフォーラム・シンポジウム等に積極的に参加し、上記の活動を通じて学んだ知識を発表するなど砂防に関する情報発信を行っている。また、不定期で勉強講演会、研修会などを開催しており、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 内 閣 府 |
| 名 称 | 五色園区自主防災隊 |
| 所 在 地 | 愛知県日進市 |
| 代 表 者 | よこい ひであき 横 井 秀 明 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同隊は、平成12年に設立されて以来、地域における自主防災訓練の実施、災害時避難行動要支援者の掌握、火災予防夜警啓発などを毎年実施し、ハード・ソフトの両面において地域防災体制の整備・強化推進に自発的に努めてきた。また、次世代を担う子供たちへの防災伝承を重要事項として、レクリエーションを取り入れながら小学校体育館での避難所宿泊体験や、「子ども防災マップ探検隊」による学区防災マップづくりなど、子どもたちの地域に対する関心や愛着を深める取り組みを実施している。</p> <p>さらに、男女共同参画の視点からの防災対応について、防災人材育成研修などの機会を積極的に活用しながら、女性リーダーの育成にも取り組んでおり、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>消 防 庁</p> |
| <p>名 称</p> | <p>企業防災ネットワーク「地震に強いものづくり地域の会」 あいぼう会</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>愛知県豊田市</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>よ こ た た か し 会 長 横 田 崇</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同会は、平成18年12月に32の企業団体によって発足し、多様な業種、分野の企業・団体と行政、大学等の防災ネットワーク組織により防災人材を育成し、その人材を活用して地域防災力を向上させるという視点から、防災意識の高揚と防災思想の普及に寄与した。団体の活動は、セミナー、講演、訓練、視察など、実践的な取り組みを通じて培った知識や経験を地域の防災力向上へと活用する事例が多く、参加者それぞれが各地域の自主防災組織などで、活発な防災活動を展開し、地域の防災力向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|---|
| 関 係 省 庁 | 内 閣 府 |
| 名 称 | 松山市自主防災組織ネットワーク会議 |
| 所 在 地 | 愛媛県松山市 |
| 代 表 者 | よしかね しげる 吉 金 茂 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同会議は、平成20年に発足し、平成24年8月に松山市全域での自主防災組織結成に至っている。</p> <p>組織づくりと並行して、活動の中核となるリーダーの育成として防災士制度を活用し、地域防災力の向上に取り組んでいる。</p> <p>平成25年度から「防災シンポジウム」を毎年開催し、全国の防災士の活動紹介や、産官学民によるパネルディスカッションを行い、機関相互の連携を深め、住民の防災意識を高めており、さらに、平成26年度からは改正災害対策基本法により創設された「地区防災計画制度」の趣旨にのっとり、各地区における計画作成の推進に取り組むなど、更なる地域防災力の向上のための活動を展開し、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|------------------|--|
| <p>関 係 省 庁</p> | <p>内 閣 府</p> |
| <p>名 称</p> | <p>相島少年消防クラブ</p> |
| <p>所 在 地</p> | <p>福岡県糟屋郡新宮町</p> |
| <p>代 表 者</p> | <p>まつむら つよし 幹 事 長 松 村 剛</p> |
| <p>功 績 の 概 要</p> | <p>同クラブは、昭和23年の結成以来、68年にわたり火災予防を呼びかける夜回り活動を行っており、その他、消防訓練（毎月）、防火ステッカー作成・配布（毎年）、防災点検（毎年）を行っている。</p> <p>また、過去3年間では、消防署における訓練・研修・防災センターでの災害体験、町内の山林調査、山林火災防止のための防火立て看板設置、文化財等の視察研修を積極的に行い、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |